羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が90%以上。	・本校教育目標を理解し、誇りと自覚を持てるような教育活動を実践し、生徒の愛校心を育む取組を推進する。	A	A	A	○結果は91.5%で良好だった。生徒が授業や学校行事、部活動等において主体的に取り組む姿勢を育成できるよう学校全体で取り組むことができた。今後より多くの生徒が日々の学校生活の中で充実感や達成感を得られる場面を設定し、学校への帰属意識を高められるようにしていきたい。	○生徒が自分でよく考え、積極的・主体的に行動している。女性のリーダーシップ育成を目指して学校がよく頑張っている。○沼女祭では生徒の団結力の高さを感ぜられた。帰属意識を高めることは母校に誇りを持つことにつながる。
		② 学校行事や生徒会行事等を通してクラスの和が高まったと感じている生徒が90%以上。	・学年を超えた生徒交流の場を増やし、LHR活動等を工夫して生徒の和を高めるようにする。	A	A	A	○結果は96.9%で、大変良好だった。文化祭、球技大会、コーラスコンクールの沼女3大行事では、生徒主体で企画・運営し、クラスや各団体が一致団結して活動することができた。特に本校最後となった文化祭では大いに盛り上がり、学年を超えた生徒間の和が高められた。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施することで、学習に対する達成感・満足感を持つ生徒が80%以上。	・コースや類型の特性を踏まえ、少人数指導、習熟度別指導等、生徒のニーズに応えた多面的な指導を行う。	A	A	A	○学習に対する達成感・満足感を持つ生徒の割合は、88.9%で数値目標を達成している。生徒の実態や進路希望に合ったきめ細かい学習支援・指導を継続していくとともに、さらなる学力向上を目指し、読解力・思考力の強化を課題として取り組んでいきたい。	○「2時間以上」という数値よりも内容が大切であって、きちんと学力がついているのかどうかを評価できる指標について検討してはどうか。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 授業以外での1日あたりの平均学習時間が2時間以上である。	・学習時間調査の結果を有効活用し、低学年からの進路意識の向上を図れるよう指導を行う。また、スタディサプリ等のICT機器を活用し、個別最適化な学びを充実させる。	D	D	D	○1日の平均学習時間が2時間以上の生徒の割合は、職員が考えているよりも多く、保護者が考えているよりも少ない。学習時間調査では1時間半くらいの全国でも平均的な学習時間の生徒が多いため、このような差が生じたと考えられる。ICT機器の活用で、生徒一人ひとりの取組を精査しながら更に達成感・満足感を生徒が感じられるようにしていきたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 職員会議等で生徒に関する情報交換を月に1~2度行う。	・学年会議や分掌会議等で定期的に生徒の情報交換・共有を行い、重要な情報等については職員会議で全職員の共通理解を図る。	A	-	A	○職員全員が情報共有を適切に行えたと回答している。生徒情報について全職員が共有できるファイルを活用し、入学時からの生徒の様子や対応状況が継続的に把握でき、組織的な対応に有効であった。引き続き、各学年で起こった生徒指導情報が各学年だけで留まらないように管理職・生徒指導主事へ連絡・報告し、組織的に対応できるように努めていく。	○二者面談等をまめに行うなど、きめ細やかで丁寧な指導はありがたいと感じている。生徒にとって先生方が自分のことを理解してくれていると嬉しくやる気につながる。○スマホなどを使ったネットいじめは表面化されにくく、対応が難しくなる。面談や挨拶等から生徒の様子を観察し、生徒の小さな変化を見逃さないことが大切だと感じる。
		⑥ 学級担任等による個人面談が効果的だと考えている生徒が80%以上。	・継続的に二者面談等を行い、生徒の実態把握に努め、一人一人の特性に合わせた指導や支援を行う。	A	A	A	○結果は87.3%で数値目標はクリアしている。担任による個人面談を継続的にを行い、生徒の学習・進路の悩み事や心身の状態に寄り添った支援を行った。またSCによる1年生全員の面談も効果的だった。今後も担任、養護教諭、部活動顧問、SC、アンケートなど様々な視点から生徒の様子を把握し、課題のある生徒に対しては組織的に支援や指導をしていく。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦ いじめ発生防止と早期発見に努め、発生した場合のいじめ解消率が100%。	・アンケート調査や二者面談を通して防止や早期発見に努め、いじめを絶対に許さない意識と態度を育てる。	A	A	A	○本校いじめ防止基本方針の保護者への周知については、合格オリエンテーション時やHPなどを活用し、学校での取組を紹介し、多くの保護者から理解を得られた。今後もいじめは絶対に許さないという校風づくりを日頃の教育教育活動の中で継続していきたい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 自らあいさつができる生徒が90%以上。	・日頃からあいさつを励行するとともに、教職員自ら率先してあいさつを行い、指導に結びつける。	A	A	A	○結果は95.3%だった。挨拶が基本的習慣として身につけている生徒がほとんどである。ただ、挨拶はするが、声が小さかったりうつむいたままという場合も散見される。気持ちの良い挨拶が、心身の健康状態を良好に保ち、円滑な人間関係を構築するには効果的であることを訴えていき、生徒の健全な学校生活につなげていきたい。	
		7 計画的な指導を行っていますか。	⑨ 学校または学年単位の進路に関する指導が効果的と感じている生徒が80%以上である。	・進路指導年間計画に基づき、進路部と各学年が連携して、3年間を見通した系統的、段階的な指導を展開する。	A	A	A	○90%以上の生徒が進路に関する指導が効果的だったと回答し、数値目標は達成できた。進路部が中心となり、各学年の協力を得て、組織的・計画的に指導にあたることができたと考えている。今後も学校・学年による全体的な取組と担任等による個別面談を組み合わせ、生徒が主体的な進路選択をできるよう支援していきたい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑩ 大学などの進路情報を積極的に収集しようとしている生徒が80%以上。 ⑪ 「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が80%以上である。	・大学が行う模擬授業の活用やオープンスクールをヒントに自らの適性から進路選択を促す。 ・「総合的な探究の時間」年間計画に基づき、課題設定、情報収集、探究活動等に主体的、協働的に取り組ませることを通じて、生徒自身がキャリアプランを策定する能力を向上させる。	A	A	A	○生徒へのアンケート結果では88.6%が進路実現に情報収集等に取り組んでいると回答している。大学見学会、本校での大学模擬授業をとおして、生徒は進路意識を高めることができたと評価できる。今後も進路学習を通じて、将来のキャリア形成の基盤になる学習態度を涵養していく。 ○今年度新設された評価項目だが、生徒へのアンケート結果は86.3%で、数値目標は達成できた。しかし、職員にとっては、探究活動はまだまだ手探り状態で進めているのが実情である。職員研修などを通して職員自身が探究活動についてより理解を深めながら、共通理解のもとに、組織的な指導体制を築いていきたい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ PTA総会、公開授業、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が70%以上。	・生徒を通じた配布物に加えて、ホームページや一斉メール等で、各行事の日程や内容等について周知を図り参加を促す。	-	C	C	○保護者へのアンケート結果は63.5%だった。コーラスコンクールや芸術鑑賞教室はコロナ類移行を受けて久しぶりに保護者等に公開する予定だったが、直前に感染症が流行し、非公開となってしまったことは残念だった。今後も授業公開を始め、学校への関心を喚起する機会を設け、保護者に積極的な参加を呼びかけていきたい。	○ホームページの情報は頻繁に更新されており、これから沼女を目指そうとしている受験生たちにも参考になっている。
		⑬ ホームページ上の情報や一斉メールの連絡に満足している生徒・保護者が80%以上。	・情報発信と内容充実により、生徒、保護者、地域に本校教育活動の実態を知らせる。	A	A	A	○生徒・保護者へのアンケート結果は90%以上で数値目標は達成できた。本年度はより多くの教員がHP操作をできるように環境整備を進め、HP更新頻度を高めたことが一因だと考えられる。引き続き、HP更新をタイムリーに行うとともに、内容を充実させ魅力ある情報発信に努めたい。また一斉メールにおいても最新かつ適確な情報を提供することを心がけたい。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑭ 学校全体のICT教育活動に満足している生徒が80%以上。	・ICT機器を活用し、「分かる授業」の実現を図るとともに、ICT機器の学習活動での活用実績を蓄積して、教職員間での共有を図る。	A	A	A	○生徒・保護者へのアンケートでは90%以上がICT教育活動に満足と回答している。ICTの活用を望む生徒は多いことから、現状に満足することなく、活用実績の共有を進め、デジタル化による学習効果を評価・検証し「分かる授業」を目指し研究していく。	○授業や業務のICT化は改善の余地を少しでも見つけ、引き続き進めていくことが大切である。 ○アンケート回答や欠席連絡がGoogleフォームでできるようになったことは保護者にとっても非常に便利で助かっていると思う。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ ICTを使うことによって、効率よく仕事ができている教師が80%以上。	・会議資料、アンケート回答・意見集約、欠席・遅刻連絡などデジタル化を推進し、事務作業時間削減及び業務効率化を目指す。	C	-	C	○職員へのアンケート結果は69.2%だった。数値目標はクリアできなかったが、業務のデジタル化については、昨年度9月から導入した欠席連絡を始め、Googleフォームによるアンケート回答集約や職員会議資料のペーパーレスなどは定着が見られた。今後もICTを活用した事務作業時間削減や業務効率化を進めていきたい。	